



日本金銭機械株式会社 (証券コード:6418)

2017年3月期 第2四半期決算資料



2016年11月10日

世界最大級のカジノ展示会‘G2E2016’に出展
(9月27～29日, サンズエキスポ)

・2017年3月期 第2四半期業績概要	.. 2~9
・2017年3月期 通期業績予想	..10~14
・持続的な成長に向けて	..15~18
・参考資料	..19~37

- ・進行年度の上半期業績の概要
- ・通期業績予想
- ・持続的な成長に向けて

を中心に、ご説明いたします。

2017年3月期 第2四半期業績概要

ポイント

- '増収'、営業利益段階では'増益'（前年同期間比）
営業利益は、上半期としては8年ぶりの'10億円台'達成
- 営業外損益：当社グループが保有する外貨建資産・負債
の中間期末日相場による評価損 663百万円
特別利益：負ののれん発生益 314百万円

進行年度の上半期業績につきましては、前年同期間比で増収、
そして営業利益段階で増益となりましたが、当社グループが保有する
外貨建資産・負債の中間期末日相場による評価損などにより、
経常利益、純利益では、減益となりました。

2017年3月期 第2四半期 業績概要

単位:百万円



	2016/3 2Q	2017/3 2Q	前年同期比		2017/3 2Q	期初計画比		業績修正 (9/6発表)
	実績	実績	率	増減額	期初計画	率	増減額	
売上高	14,501	15,298	+ 5.5%	+796	14,700	+ 4.1%	+598	15,200
グローバルゲーミング	7,795	8,539	+ 9.5%	+744	7,650	+11.6%	+889	8,685
海外コマース	2,025	1,884	- 6.9%	-140	1,800	+ 4.7%	+ 84	1,710
(内数)プリンター事業	(2,230)	(2,323)		(+93)	(2,100)		(+223)	(2,300)
国内コマース	943	978	+ 3.7%	+ 35	1,000	- 2.2%	- 22	950
遊技場向機器	3,736	3,895	+ 4.2%	+158	4,250	- 8.4%	-355	3,855
(内数)シルバー譲受事業	—	(60)		(+60)	—		(+60)	(+10)
営業利益	4.3% 618	7.5% 1,147	+85.6%	+529	4.8% 700	+63.9%	+447	6.5% 990
営業外損益	86	△ 581		△ 668	△ 100		△ 481	△ 510
為替差損益	51	△ 663		△ 714	0		△ 663	△ 452
経常利益	4.9% 705	3.7% 566	-19.7%	-1.2P △ 138	4.1% 600	- 5.6%	-0.4P △ 33	3.2% 480
四半期純利益	3.2% 464	2.6% 403	-13.1%	-0.6P △ 61	2.7% 400	+ 0.8%	-0.1P + 3	2.5% 380
平均為替レート	米ドル 120.50円	111.79円		- 8.71円	110.00円		+ 1.79円	111.79円
	ユーロ 133.85円	124.24円		- 9.61円	125.00円		- 0.76円	124.24円
期末日レート(米ドル)								
前期決算期末	120.28円	112.69円			112.69円			112.69円
	↓ - 0.33	↓ -11.66			↓ - 0.69			↓ - 9.69
2Q決算期末	119.95円	101.03円			112.00円			103.00円

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

3

進行年度 第2四半期累計の業績は、

売上高は、グローバルゲーミングが好調に推移し、前年同期間比5.5%増、7億96百万円増収の152億98百万円となりました。

利益面では海外ゲーミング市場での市場競争の激化に伴う販売価格の軟化はありましたが、プリンター事業での収益性の向上や販管費の削減などにより、営業利益は前年同期間比85.6%増、5億29百万円増益の11億47百万円と、上半期の営業利益としては、8年ぶりに10億円台となりました。

しかし、営業外損益で、円高の進行により、外貨建資産・負債の評価損を6億63百万円計上したこともあり、経常利益は1億38百万円減益の5億66百万円、また、特別利益として'負ののれん発生益' 3億14百万円を計上しましたが、税金費用の増加により、四半期純利益も61百万円減益の4億3百万円となりました。

2017年3月期 第2四半期業績（区分別）

単位：百万円



	2016/3月期 2Q実績			2017/3月期 2Q実績			2017/3月期 2Q計画			プリンター事業 増減	
	合計	従来事業	プリンター	合計	従来事業	プリンター	合計	従来事業	プリンター	前2Q比	計画比
売上高	14,501	12,271	2,230	15,298	12,975	2,323	14,700	12,600	2,100	93	223
	40.5%	38.7%	50.8%	39.0%	36.9%	50.3%	38.8%	36.5%	52.4%	-0.5pt	-2.1pt
売上総利益	5,880	4,748	1,132	5,959	4,791	1,168	5,700	4,600	1,100	36	68
販管費	5,261	4,493	768	4,812	4,273	539	5,000	4,400	600	-229	-61
営業利益	618	254	364	1,147	518	629	700	200	500	+10.8pt	+3.3pt

EBITDA	7.9%	1,143	11.2%	1,716	8.8%	1,290
--------	------	-------	-------	-------	------	-------

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん相当償却費

プリンター事業は、販管費の削減効果により、営業増益に大きく貢献

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

4

「プリンター事業」の損益状況について、前年同期間比、計画比で表示しております。

資料にありますように、「プリンター事業」は販管費の削減効果により、収益性の向上が図られたことで、営業増益に大きく貢献しております。

※販管費 項目別減少内容（百万円）

- ・プリンター事業 人件費 △98、賃借料 △72
- ・従来事業 外部業務委託費用 △78、旅費 △32、

2017年3月期第2四半期 セグメント別業績

		売上高			営業利益		
		2016/3 2Q 累計実績	2017/3 2Q 累計実績	2017/3 2Q 累計計画	2016/3 2Q 累計実績	2017/3 2Q 累計実績	2017/3 2Q 累計計画
I.グローバル ゲーミング	外貨(千米ドル)	42,074	46,094	43,595	15.7%	21.3%	17.0%
	外貨(千ユーロ)	20,364	27,263	22,800			
	邦貨(百万円)	7,795	8,539	7,650			
II.海外 コマーシャル	外貨(千米ドル)	9,648	8,520	8,550	17.9%	7.7%	10.6%
	外貨(千ユーロ)	6,446	7,501	6,880			
	邦貨(百万円)	2,025	1,884	1,800			
III.国内 コマーシャル		943	978	1,000	4.6%	4.5%	9.0%
IV.遊技場向 機器		3,736	3,895	4,250	0.5%	2.5%	1.2%
調整額		—	—	—	△ 1,030	△ 956	△ 930
連 結		14,501	15,298	14,700	4.3%	7.5%	4.8%
海外売上高	外貨(千米ドル)	51,722	54,614	52,145			
	外貨(千ユーロ)	26,810	34,764	29,680			
	邦貨(百万円)	9,821	10,424	9,450			

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

セグメント別の業績を表示しております。

グローバルゲーミング

セグメント別売上高



区分		2016/3 2Q 累計実績	2017/3 2Q 累計実績	2017/3 2Q 累計計画	比較増減			
					前年同期比		計画比	
北米・中南米	外貨(千米\$)	19,851	22,888	20,000	+15.3%	+3,037	+14.4%	+2,888
	邦貨(百万円)	2,392	2,559	2,200		+167		+359
アジア・パシフィック	外貨(千米\$)	3,717	4,051	4,550	+9.0%	+334	-11.0%	-499
	邦貨(百万円)	448	453	500		+5		-47
欧州・アフリカ・中近東	外貨(千€)	20,364	27,263	22,800	+33.9%	+6,899	+19.6%	+4,463
	邦貨(百万円)	2,725	3,387	2,850		+662		+537
プリンター事業	外貨(千米\$)	18,506	14,248	14,500	-	-	-1.7%	-252
	外貨(千€)		4,415	4,000			+10.4%	+415
	邦貨(百万円)	2,230	2,141	2,100		-89		+41
計	売上高(百万円)	7,795	8,539	7,650	+9.5%	+744	+11.6%	+889
	営業利益(%)	15.7% 1,224	21.3% 1,819	17.0% 1,300	+5.6pt	+595	+4.3pt	+519
平均為替レート	米ドル	120.50円	111.79円	110.00円		-8.71円		+1.79円
	ユーロ	133.85円	124.24円	125.00円		-9.61円		-0.76円

(注)プリンター事業については、前期までは全て'ゲーミング'で計上していたが、進行年度より'コマーシャル'と区分して表示
また、北米市場、欧州市場に分けて表示

アジア以外の区分が好調に推移、特に欧州地域は東欧(ポーランド・フィンランドAWP市場)での入替需要が大きく伸長したことで、前年同期間比・計画比で大幅な増収。
プリンター事業の収益性が向上(16→27%:P.4参照)したこともあり、利益率+5.6pt

海外コマース

セグメント別売上高



区分		2016/3 2Q		2017/3 2Q		2017/3 2Q		比較増減		
		累計実績		累計実績		累計計画		前年同期比	計画比	
北米・中南米	外貨(千米\$)	7,867	5,763	6,550	-26.7%	-2,104	-12.0%	-787		
	邦貨(百万円)	947	644	720	-303	-76				
アジア・パシフィック	外貨(千米\$)	1,781	1,133	2,000	-36.4%	-648	-43.4%	-867		
	邦貨(百万円)	215	127	220	-88	-93				
欧州・アフリカ・中近東	外貨(千€)	6,446	7,501	6,880	+16.4%	+1,055	+9.0%	+621		
	邦貨(百万円)	863	932	860	+69	+72				
プリンター	外貨(千米\$)	-	1,624	-	-	+1,624	-	+1,624		
	邦貨(百万円)	-	182	-	+182	+182				
計	売上高(百万円)	2,025	1,884	1,800	-6.9%	-140	+4.7%	+84		
	営業利益(%)	17.9%	363	7.7%	144	10.6%	190	-10.2pt	-218	-2.9pt
平均為替レート	米ドル	120.50円	111.79円	110.00円	-8.71円	+1.79円				
	ユーロ	133.85円	124.24円	125.00円	-9.61円	-0.76円				

(注)プリンター事業については、前期まで全て「ゲーミング」で計上していたが、進行年度より「コマース」と区分して表示

- ・北米・中南米 金融OEM向が低調に推移
- ・アジアパシフィック 中国リテール向、インド鉄道向が後づれた影響もあり、前年同期間比・計画比でマイナス
- ・欧州 駐車場、リテール向を中心に順調に推移

欧州地域は前年同期間実績・計画を上回って推移するも、北米・アジアで振るわず、前年同期間比、計画比で減収。先行投資コスト計上もあり、収益性は低下。

単位：百万円

	2016/3 2Q		2017/3 2Q		2017/3 2Q		比較増減			
	累計実績		累計実績		累計計画		前年同期比	計画比		
売上高	943	978	1,000	+ 3.7%	+35	- 2.2%	-22			
営業利益	4.6%	43	4.5%	43	9.0%	90	- 0.1pt	0	- 4.5pt	-47

<セルフガソリンスタンド精算機向>

紙幣還流ユニット + 硬貨還流装置

◇CRU-06

6金種分離回収機能搭載

最大で約50枚の一括入金が可能。

識別センサーで高速の入金処理と

6金種分離回収を実現。



売上高は、セルフガソリンスタンド精算機向や飲食店券売機向が順調に推移し、前年同期間実績、計画並みで推移。
利益面では、開発費用増加により、計画を下回る。

遊技場向機器

セグメント別売上高



単位:百万円

区分	2016/3 2Q		2017/3 2Q		比較増減			
	累計実績		累計実績		累計計画		前年同期比	計画比
遊技場向	3,446		3,543		3,955		+2.8%	-10.4%
							+97	-412
シルバー譲受	-		60		-		+60	+60
アミューズメント	290		292		295		+0.7%	-1.0%
							+2	-3
売上高	3,736		3,895		4,250		+4.2%	+158
							-8.4%	-355
営業利益	0.5%	18	2.5%	95	1.2%	50	+2.0pt	+77
							+1.3pt	+45

(補足) アミューズメント事業 …… ゲームセンターの運営(上野店(台東区)、川崎店(川崎市))

「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機(パチンコ機)」の回収・撤去に伴う市場環境の悪化とパチンコからパチスロへの移行が期待通りに進まず、計画未達。利益面では、製品構成により(自動補給設備の構成比が高く)、収益性が改善。

「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」の回収・撤去に関しては、P.31ご参照

2017年3月期 通期業績予想

ポイント

■業績予想の修正（9月6日発表済）

- ・グローバルゲーミングセグメントが北米、欧州で好調なことに加え、プリンター事業のコストシナジーも現れ始める

⇒ 売上高、営業利益 を上方修正

- ・想定為替レートを円高方向に見直し

米ドル：110円 → 103円

ユーロ：125円 → 115円

⇒ 経常利益、純利益 を下方修正

通期の業績につきましては、9月6日に発表いたしましたとおり、

想定為替レートを円高方向に見直し、通期予想を修正いたしました。

2017年3月期 通期業績見通し



事業セグメント別、為替の見通し（上半期からの変化、実需ベース）

◇グローバルゲーミング： →

- 北米地域、欧州地域、そしてプリンター事業は堅調に推移する見込み

◇海外コマース： →

- × 北米地域では、下半期も引き続き、主力の金融OEM向けが低調な推移となる見込み
- × アジア地域も、中国、インド向けが、ともに期初計画から乖離する見込み
- 欧州地域は、堅調に推移する見込み

◇国内コマース： →

- GS精算機向、飲食店券売機向は堅調に推移する見込み。外貨両替機の拡販に期待

◇遊技場向機器： →

- × パチンコ機の年内撤去(約59万台)にあたり、周辺機器への投資はより不透明な状況に
- パチンコからパチスロへの入替需要に期待。

◇為替： →

- × 平均レートは米ドル・ユーロともに円高方向に見直し。
8月以降、米ドル 103円、ユーロ 115円に。
- 期末の米ドルレートは2Q期末よりも円安を予想（101.03円 → 103円）

海外コマースは上半期より低調な推移、
他の3セグメントは上半期並みの推移と予想

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

11

進行年度の下半期のセグメント別での事業環境については、資料のように予想しております。

概況としては、海外コマースが北米・欧州ともに上半期より低調な推移となりますが、国内事業と海外ゲーミングについては実需ベースで、上半期並みに推移するという予想をしております。

但し、遊技場向機器では年内に「検定機と性能の異なるパチンコ機」が約58万台撤去されることに関連して、最繁忙期である年末商戦の状況が不透明になっていることから、想定よりもさらに厳しい推移になることを懸念しております。

為替につきましては、8月以降、米ドルを103円、ユーロを115円とともに円高方向に見直いたしました。

尚、以上の想定については、9月6日の修正発表の際から変更しておりません。

2017年3月期 通期業績見通し (9/6修正発表)



単位:百万円

	2016/3 実績	2017/3 期初計画	2017/3月期 通期予想			前期比	期初計画比
			既存事業	譲受事業	合計		
グローバルゲーミング	16,216	15,450	16,600	—	16,600	383	1,150
海外コマース	4,057	3,450	3,300	—	3,300	△ 757	△ 150
(内数)プリンター事業	(4,658)	(4,150)	(4,520)	—	(4,520)	(△ 138)	(370)
国内コマース	1,919	2,250	2,000	—	2,000	80	△ 250
遊技場向機器	7,567	8,850	7,700	◎ 500	8,200	633	△ 650
売上高	29,761	30,000	29,600	500	30,100	339	100
営業利益	5.0% 1,497	5.0% 1,500			5.6% 1,700	+0.6pt 203	+0.6pt 200
経常利益	3.8% 1,142	5.0% 1,500			3.8% 1,130	±0.0pt △ 12	-1.2pt △ 370
当期純利益	1.2% 357	3.0% 900			2.1% 640	+0.9pt 283	-0.9pt △ 260

◎「シルバー電研」からの譲受事業は9月以降の7ヶ月分

平均為替レート

米ドル	121.04円	110.00円	※8月～を、103円に設定	107.50円	-13.54円	-2.50円
ユーロ	133.70円	125.00円	※ " 、115円に設定	119.70円	-14.00円	-5.30円

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

12

11ページの前提のもと、売上高は、下半期での為替レート見直しによる約7億円の減収とシルバーからの譲受事業での5億円を織り込んで、前期比3億円増の301億円、そして営業利益は前期比2億円の増益と予想しております。

しかし、期末時点での為替レートを米ドル 103円と設定し、為替差損約4億50百万円の計上を想定していることから、経常利益では減益を予想しております。

但し、特別利益として、「負ののれん発生益」3億14百万円を計上することもあり、当期純利益では前期比で3億円程度の増益と予想しております。

2017年3月期 通期(下半期)業績予想



(9/6プレス内容どおり)

単位:百万円

	2016/3	2017/3月期 期初計画			2017/3月期 予想		
	通期	上半期	下半期	通期	上半期実績	下半期予想	通期予想
売上高	29,761	14,700	15,300	30,000	15,298	14,802	30,100
営業利益	5.0% 1,497	4.8% 700	5.2% 800	5.0% 1,500	7.5% 1,147	3.7% 553	5.6% 1,700
経常利益	3.8% 1,142	4.1% 600	5.9% 900	5.0% 1,500	3.7% 566	3.8% 564	3.8% 1,130
当期純利益	1.2% 357	2.7% 400	3.3% 500	3.0% 900	2.6% 403	1.6% 237	2.1% 640

平均為替レート

米ドル	121.04円	110.00円	111.79円	103.00円	107.50円
ユーロ	133.70円	125.00円	124.24円	115.00円	119.70円

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

13

進行年度の下半期の売上高と利益の予想を示しております。

下半期は、上半期に比較して、減収要因に加えて、販管費の増加も

あり、営業利益が半減する見込みをしております。

2017年3月期通期 セグメント別業績見通し



単位: 百万円

		売上高			営業利益		
		2016/3 累計実績	2017/3 累計予想	2017/3 累計計画	2016/3 累計実績	2017/3 累計予想	2017/3 累計計画
I. グローバル ゲーミング	外貨(千米ドル)	90,171	93,350	90,000	15.8%	19.2%	17.2%
	外貨(千ユーロ)	39,658	54,900	44,400			
	邦貨(百万円)	16,216	16,600	15,450			
II. 海外 コマーシャル	外貨(千米ドル)	19,916	14,835	16,850	18.3%	7.5%	10.1%
	外貨(千ユーロ)	12,320	14,160	12,800			
	邦貨(百万円)	4,057	3,300	3,450			
III. 国内 コマーシャル		1,919	2,000	2,250	-0.3%	4.9%	8.4%
					△ 6	95	190
IV. 遊技場向 機器		7,567	8,200	8,850	0.1%	2.5%	1.7%
					6	200	150
調整額		—	—	—	△ 1,809	△ 2,022	△ 1,840
連 結		29,761	30,100	30,000	5.0%	5.6%	5.0%
					1,497	1,700	1,500
海外売上高	外貨(千米ドル)	110,087	108,185	106,850			
	外貨(千ユーロ)	51,978	69,060	57,200			
	邦貨(百万円)	20,270	19,900	18,900	68.1%	66.1%	63.0%

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

14

通期のセグメント別の業績予想を表示しております。

持続的な成長に向けて

新たな取り組み

■ 未開拓市場への展開

海外コマース

ブラジル・南ア市場で、新製品の販売を開始

■ 事業譲受の完了

遊技場向機器

シルバー電研(株)から、遊技場向機器事業の一部を譲受け、
9月1日から事業を開始

成長戦略テーマの進捗状況について、ご説明いたします。

グローバルゲーミング

◇『Ticket 2 Go (チケット・ツー・ゴー)』

英国やスペインの大手アーケードで導入が進み、順調に稼働している。顧客からは、売り上げ増や経費削減などで、大きな効果があったと好評を得ている。引き続き、上記アーケード向への拡販とともに、ニュージーランドなどの新たな市場の開拓にも取り組んでいる。

◇『Table Xchange Plus (テーブル・エクスチェンジ・プラス)』

チケットイン・チケットアウト・システムとも連動したテーブルゲーム向け製品。欧州市場でのテストに向けて準備中。

国内コマースヤル

◇『外貨両替機』

金融機関、ホテルチェーン、空港などで設置が進行。 9月末現在設置台数 53台

※2016年 訪日外国人数(1~9月累計) 1,797万人 前年同期比 +24.1% [観光庁資料より]
10月で2,000万人を突破したとの発表あり(10/31)。

海外コマース

未開拓市場への取り組み

◇『ブラジル・南アフリカ市場向』

偽札の判別や入金額の記録ができる貨幣処理機器ユニットをブラジルと南アフリカで発売開始。それぞれ現地の金庫メーカーと協業し、スーパーなどの小売店向けの金庫（納金機）として納入される。年内から販売を開始、両市場における初年度売上見込5億円



◇『インド市場向』

鉄道券売機向

今年前半に第2回の入札が実施される予定であったが、10月末時点で実施時期に関する確定情報は公表されていない。

◇『ロシア・CIS諸国市場向』

新規顧客での採用が決定(2017年～)。引き続き、市場開拓に取り組む。

シルバー電研からの事業譲受完了



◇譲受け事業の内容

遊技場向機器

同社の遊技機器事業のうち、iクリアシステム製品及び紙幣搬送機器製品の開発・製造・販売業務並びにアフターメンテナンス業務

※ iクリアシステムとは、データ改ざん防止装置を搭載した玉貸機やメダル貸機での売上情報に暗号化の処理が施されて、データ管理センターに送信・蓄積・保管することで、売上データの透明性を確保できるシステム。契約店舗は約1,000店で、弊社約100店に対して、S社は約400店。

◇譲受価額

100万円

◇譲受実行日

本年9月1日

同日より、事業を開始しております

◇売上予想 (2017年3月期:9月～:7ヶ月)

売上高 500 百万円

紙幣搬送システム



サンドに入金された紙幣は、営業台の上部の搬送管を通して島端の金庫に収納される

各台紙幣搬送ユニット



紙幣投入時のみ稼働するため、過剰な電力をカット

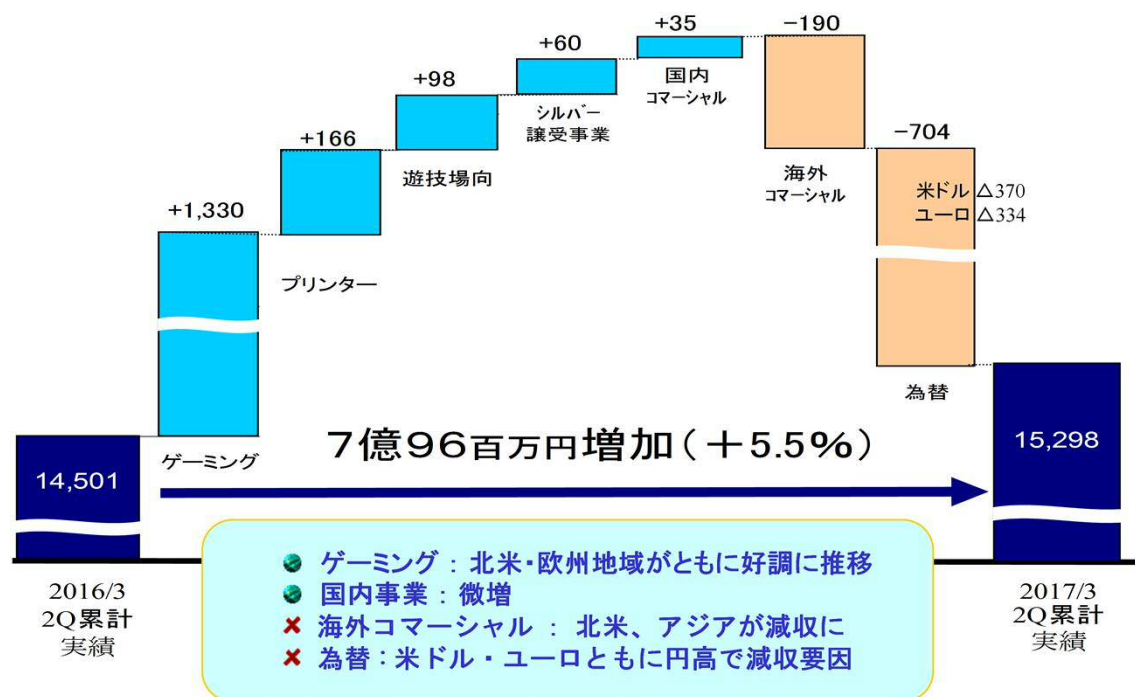
紙幣回収金庫



紙幣搬送装置より搬送された紙幣を収納

・2017/3月期 2Q売上高増減要因(前年同期間比)	・・20
・2017/3月期 2Q営業利益増減要因(")	・・21
・貸借対照表	・・22,23
・キャッシュ・フロー	・・24
・利益還元	・・25
・設備投資額、減価償却費、研究開発費	・・26
・為替影響	・・27
・半期別業績推移(2015/3,16/3月期)	・・28
・四半期別業績推移(2015/3月期～17/3 2Q)	・・29,30
・遊技機市場関連情報	・・31
・海外カジノ関連情報	・・32,33
・国内カジノ関連情報	・・34
・中期経営計画の進捗	・・35,36
・上半期の主なプレス案件と展示会出展	・・37

売上高増減要因（前年同期間比）

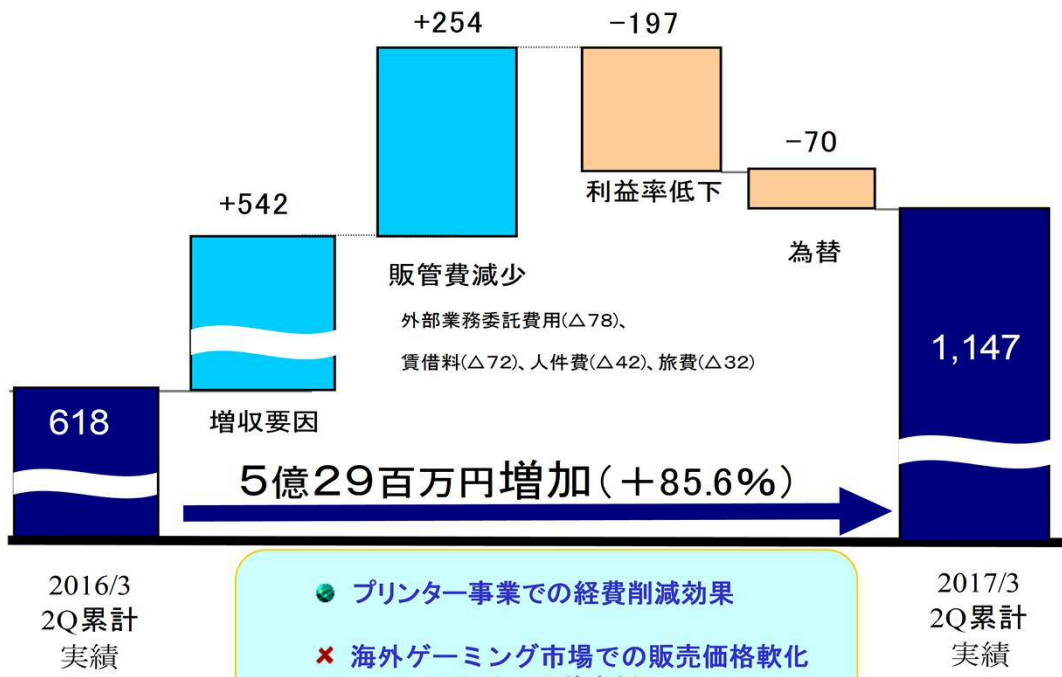


2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

前年同期間比での売上高の主な増減要因を示しております。

営業利益増減要因（前年同期間比）



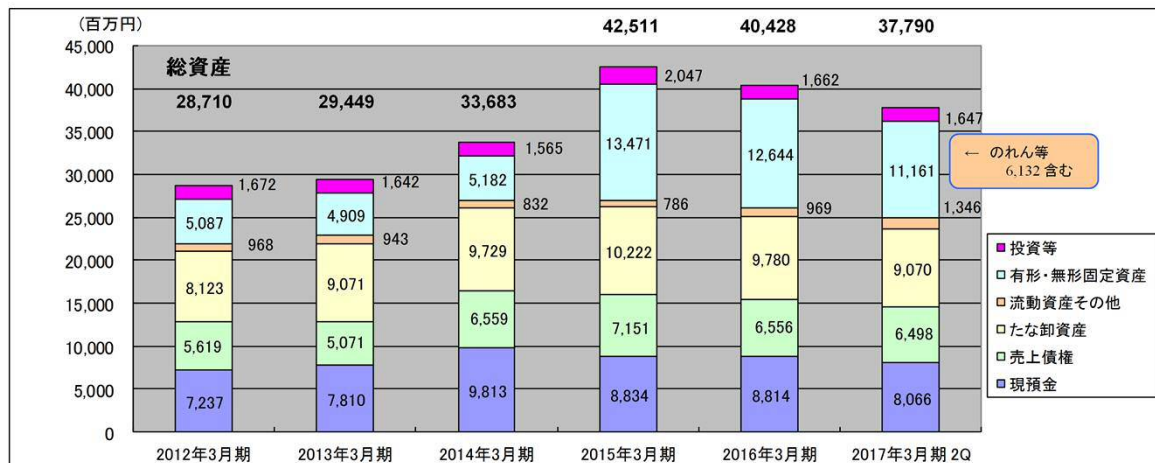
2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

前年同期間比での営業利益の主な増減要因を示しております。

資産の部 : △26億38百万円

流動資産 △1,139 : 現預金 △748、たな卸資産 △710
 固定資産 △1,498 : 無形固定資産 △1,354



期末日(中間期末日)レート

米ドル	82.19	94.06	102.91	120.28	112.69	101.03
ユーロ	109.81	120.77	141.60	130.38	127.68	113.25

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

2016年9月末時点の資産合計は、前期末と比較して、26億38百万円減少し、377億90百万円となりました。

流動資産は、

「現預金」 : △7億48百万円

「たな卸資産」 : △7億10百万円

などにより、11億39百万円の減少となりました。

また、固定資産は、「無形固定資産」 : △13億54百万円

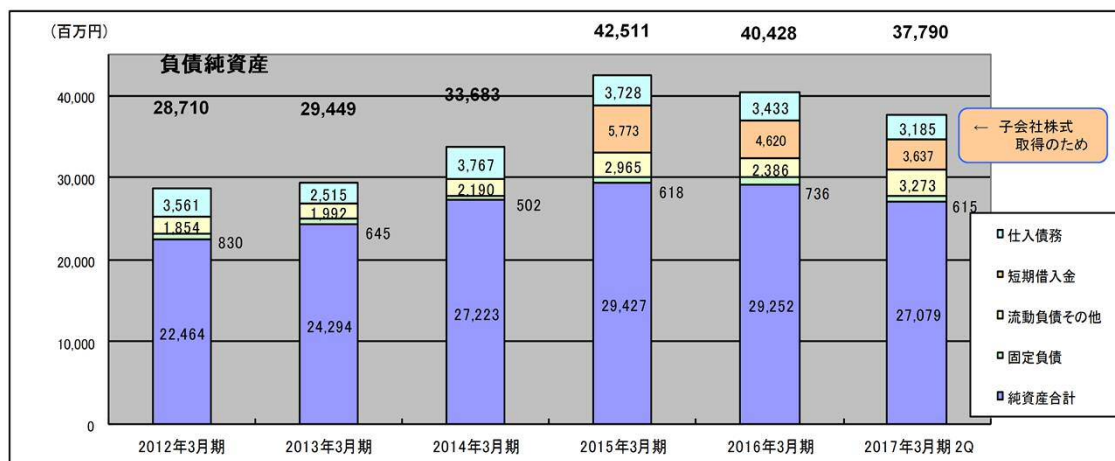
(のれん相当償却費 2億99百万円)

などにより、14億98百万円の減少となりました。

負債 : △4億66百万円

流動負債 △344 : 短期借入金 △983、仕入債務 △248、その他 +755

純資産 : △21億72百万円: 為替換算調整勘定 △2,033



自己資本比率(%) 78.2 82.5 80.8 69.2 72.3 71.6

1株当たり純資産(円) 832.63 900.46 1,009.07 1,090.80 1,084.29 1,012.62

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

23

負債は、前期末と比較して、4億66百万円減少して、107億10百万円となりました。

主な増減の内容としては、以下のとおりです。

「短期借入金」 : △9億83百万円

「仕入債務」 : △2億48百万円

「その他」 : +7億54百万円

純資産は、中間決算期末日レート的大幅な変動により、

「為替換算調整勘定」が20億33百万円の減少、合計では21億72百万円減少し、270億79百万円となりました。

尚、自己資本比率は71.6%と前期末と比べて0.7%減少しました。

- ・営業CF：税金等調整前純利益 877、償却費 569、
 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減 $\Delta 737$
- ・投資CF：事業譲渡による収入 306、有形固定資産取得 129
- ・財務CF：借入金返済 $\Delta 515$ 、自己株式取得 $\Delta 300$ 、配当金支払 229

	'11/3月期	'12/3月期	'13/3月期	'14/3月期	'15/3月期	'16/3月期	'17/3月期 2Q
営業活動によるCF	$\Delta 1,024$	$\Delta 729$	918	2,098	1,801	1,758	875
投資活動によるCF	$\Delta 1,345$	$\Delta 535$	$\Delta 166$	$\Delta 545$	$\Delta 6,991$	$\Delta 242$	156
財務活動によるCF	$\Delta 111$	$\Delta 317$	$\Delta 537$	$\Delta 626$	5,181	$\Delta 1,414$	$\Delta 1,097$
現金及び同等物に係る換算差額	$\Delta 561$	$\Delta 57$	259	579	334	$\Delta 121$	$\Delta 682$
現金及び同等物の増加額	$\Delta 3,042$	$\Delta 1,641$	474	1,506	325	$\Delta 19$	$\Delta 748$
現金等期末残高	8,150	6,508	6,982	8,488	8,814	8,794	8,046
フリー・キャッシュ・ フロー	$\Delta 2,369$	$\Delta 1,264$	752	1,553	$\Delta 5,190$	1,516	1,031

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

24

キャッシュ・フローの主な増減内容は、下記のとおりです。

◇営業活動CF 8億75百万円

- ・主な増減要因は、税金等調整前純利益 8億77百万円
 減価償却費 5億69百万円
 (のれん相当償却費 2億99百万円含む)
 運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減
 $\Delta 7$ 億37百万円
 負ののれん発生益 $\Delta 3$ 億14百万円

◇投資活動CF 1億56百万円

- ・主な増減要因は、有形固定資産の取得 $\Delta 1$ 億38百万円
 事業譲受による収入 3億6百万円

◇財務活動CF $\Delta 10$ 億97百万円

- 短期借入金の返済 5億15百万円
 配当金支払 2億29百万円
 自己株式取得 3億円

◇現金同等物の換算差額 $\Delta 6$ 億82百万円

2017年3月期は、年間普通配当17円を予定



※2013/3には株式上市20周年、2015/3には創立60周年の記念配当をそれぞれ2円含む

1株当たり利益推移(円) **28.9** **53.1** **52.6** **55.1** **13.3** **23.7**

配当性向推移(%) **48.5** **33.9** **30.4** **34.5** **128.1** **71.7**

純資産配当率(%) **1.7** **1.7** **1.7** **1.8** **1.6** **1.6**

《業績連動型株主還元を継続》

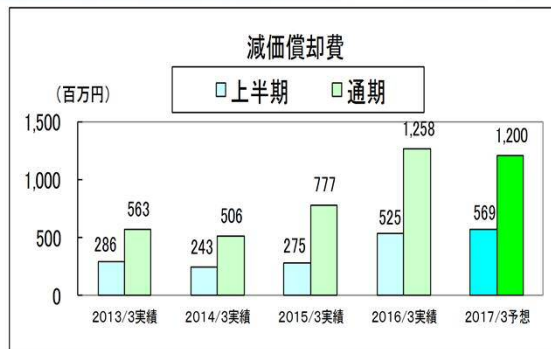
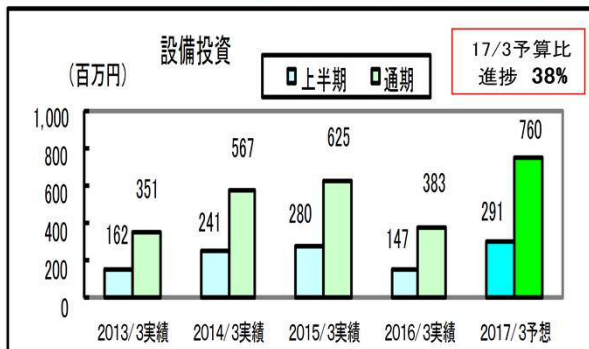
・配当性向(連結) **30%以上** ・純資産配当率 **2.0%以上** を目指す

連結業績および配当性向を総合的に勘案しながら、長期安定的に配当水準の継続的向上に取り組む。

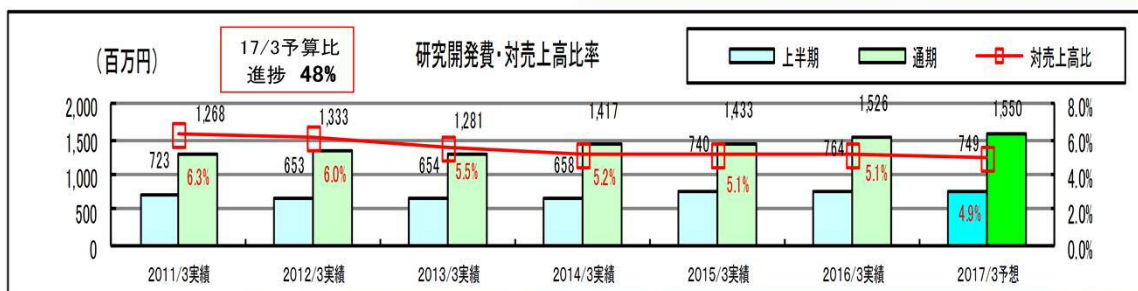
利益還元については、上半期は、純利益が計画どおりとなりましたので、

配当は期初の想定どおり、8.5円と決定いたしました。

また、年間配当額についても、17円を据え置いております。

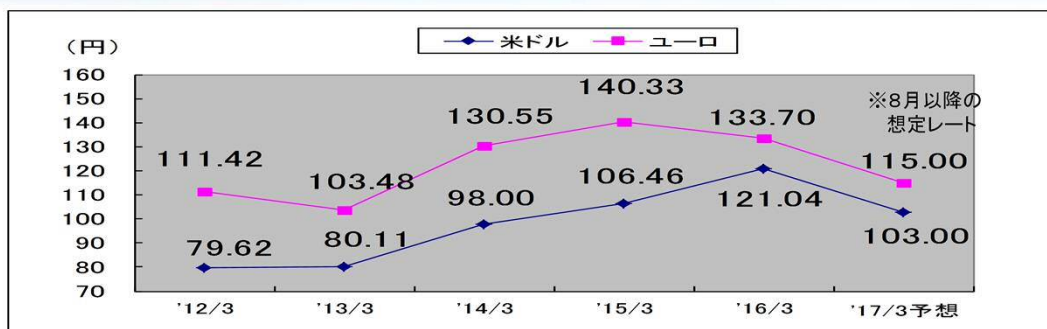


のれん相当償却費(上表数値内数)
 ※ [] 内は上半期 [-]200 [325]649 [299]595



設備投資額、減価償却費、研究開発費については、上記のとおりで
 ございます。

尚、減価償却費には、2015年3月期の下半期より、「のれん
 相当資産」の償却費が含まれております。



1円当たりの営業利益への影響額 (百万円)

米ドル	0	9	18	11	21	23 (プラス)
ユーロ	2	6	7	6	5	5 (プラス)

《 進行年度における為替レートの想定、1円変動による為替感応度 (連結業績影響度) 》

◇期中平均レート (円)

	2016/3実績	2017/3予想	為替感応度 ~売上高~(百万円)
米ドル	121.04	103.00	108
ユーロ	133.70	115.00	69

◇期末日レート (円)

	2016/3期末	2017/3 期末予想	為替感応度 ~営業外~(百万円)
米ドル	112.69	103.00	45
ユーロ	127.68	115.00	0.3

※8月以降の
想定レート

当社グループでは、グループ内の海外取引に係る商流変更の実施により、為替影響を低減させる取り組みを実施しております。

進行年度の為替レートは

期初計画では、米ドル 110円、ユーロ 125円 としておりましたが、

8月度以降、米ドル 103円、ユーロ 115円 と変更いたしました。

尚、通期の期中平均レートとしては、

米ドル 107.50円、ユーロ 119.70円 と予想しております。

	2015/3 実績			2016/3 実績		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	13,324	14,593	27,917	14,501	15,260	29,761
売上原価	8,494	9,052	17,546	8,621	9,387	18,008
売上総利益	36.2% 4,829	38.0% 5,541	37.1% 10,370	40.5% 5,880	38.5% 5,873	39.5% 11,753
販管費	4,106	4,979	9,085	5,261	4,994	10,255
営業利益	5.4% 723	3.9% 562	4.6% 1,285	4.3% 618	5.8% 879	5.0% 1,497
営業外損益	334	547	881	86	△ 442	△ 355
経常利益	7.9% 1,057	7.6% 1,109	7.8% 2,166	4.9% 705	2.9% 437	3.8% 1,142
特別損益	△ 16	△ 269	△ 284	△ 1	△ 81	△ 81
税引前利益	1,041	840	1,881	704	356	1,060
法人税等	280	114	394	239	463	702
親会社帰属 純利益	5.7% 760	5.0% 726	5.3% 1,486	3.2% 464	-0.7% △ 107	1.2% 357

平均為替レート

米ドル	102.22円	110.70円	106.46円	120.50円	121.58円	121.04円
ユーロ	139.84円	140.82円	140.33円	133.85円	133.55円	133.70円

過去2年間の業績を、上半期と下半期に分けて表示しております。

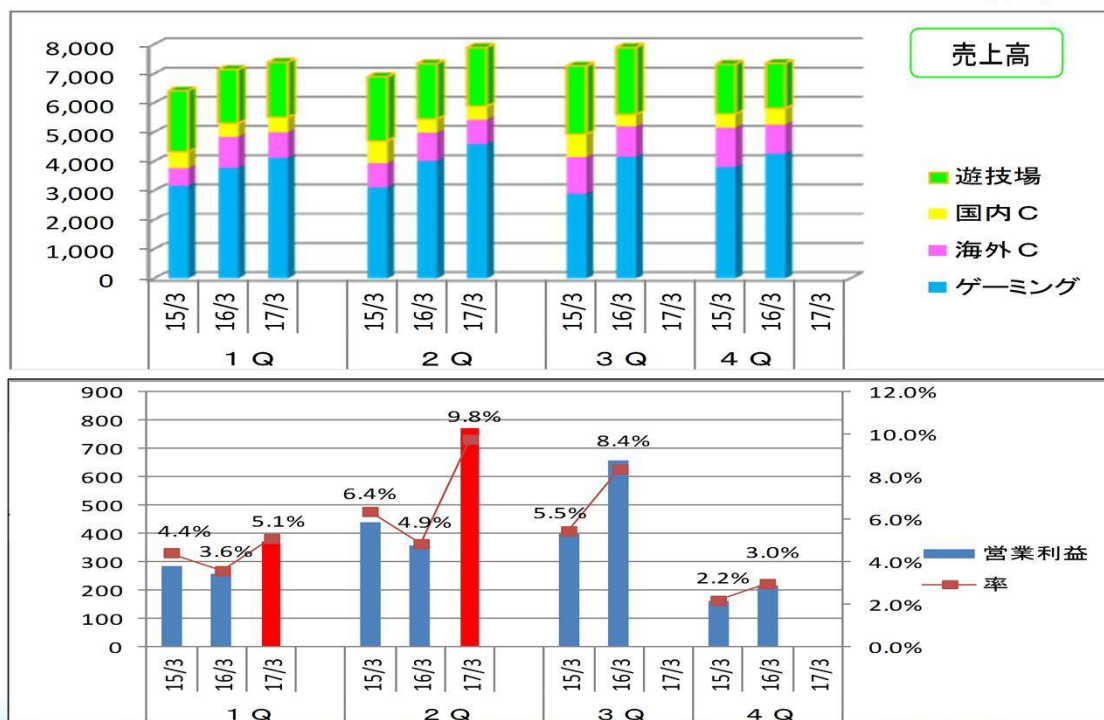
単位：百万円

	2015/3 実績					2016/3 実績					2017/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
売上高	6,425	6,899	7,265	7,328	27,917	7,148	7,353	7,903	7,357	29,761	7,398	7,900
グローバルゲーミング	3,172	3,115	2,893	3,808	12,987	3,775	4,021	4,156	4,266	16,216	4,124	4,415
(内数)プリンター	—	—	(317)	(1,026)	(1,343)	(1,035)	(1,195)	(1,193)	(1,236)	(4,658)	(1,097)	(1,044)
海外コマース	602	829	1,252	1,348	4,030	1,061	964	1,036	997	4,057	876	1,008
(内数)プリンター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(182)
国内コマース	568	760	790	478	2,596	472	471	416	560	1,919	511	467
遊技場向機器	2,081	2,195	2,330	1,695	8,302	1,839	1,897	2,295	1,536	7,567	1,885	2,010
(内数)S社譲受	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(60)

(業績の取り込み時期) プリンター事業(海外)：2014/9～、S社譲受事業(国内)：2016/9～

直近の3年間の四半期別・セグメント別の売上高の推移を表示しております。

単位:百万円



2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

直近の3年間の四半期別の売上高と営業利益の推移を示しております。

・「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」の回収・撤去問題

パチンコ機メーカーの業界団体である日本遊技機工業組合は6月23日に23社93型式 計58万9,510台を回収することを発表した(第3次:最終)。今年2月10日、3月1日に発表されている第1次、第2次回収リストの45型式 計13万6,967台を含めると、72万6,477台となる。この台数は、現在パチンコ店に設置されている約290万台の25%に相当する膨大な数である。

続いて、6月27日には業界14団体で、下記の声明が採択された。

①第3次リストまでに出揃った回収対象機を年内にすべて撤去する。

②そのうち、第1、2次リスト対象機を8月末までに回収・撤去する。

ちなみに、パチンコ業界でこれほどの大規模な機械回収は1996年以来20年ぶりのことになる。

未撤去の場合には、資格停止というペナルティを課すとの通達にも関わらず、第1,2次リストの撤去期限にあたる8月末時点では約1千台が未撤去であった模様。

3次リスト掲載機については、8月末で82千台(14%)が撤去されているが、年内回収に向けた取り組みもホールごとに対応が異なるものと考えられている。

・遊技場関連統計

市場規模は前年から1兆2,750億円、率にして5.2%下落、過去10年間で最低値となる。

	市場規模 (億円)	参加人口 (万人)	ホール数 (店)	パチンコ設置台数 (万台)	パチスロ設置台数 (万台)	合計 (万台)	1店舗当たり平均 遊技設置台数 (台)
2013年度	250,050	970	11,893	65.3% 300	34.7% 160	461	387.8
2014年度	245,040	1,150	11,627	64.3% 295	35.7% 164	459	395.4
2015年度	232,290	1,070	11,310	63.5% 290	36.5% 166	457	404.6

(注)・市場規模、参加人数は『レジャー白書2016』より

・ホール数、パチンコ・パチスロ設置台数等は年末時点の数値、『警察庁保安課まとめ』より

遊技場向機器事業を取り巻く事業環境に関する項目を取り上げております。

昨年から問題になっていた「検定機と性能が異なる可能性のある遊技機」の回収・撤去問題に関して、パチンコ機メーカーの業界団体である日本遊技機工業組合は6月23日に23社93型式 計58万9,510台を回収することを発表しました。

今年2月、3月に発表されている第1次、第2次回収リストの45型式 計13万6,967台を含めると、72万6,477台となります。

この台数は、現在パチンコ店に設置されている約290万台の25%に相当する膨大な数であります。

続いて、6月27日には業界14団体で、

①第3次リストまでに出揃った回収対象機を年内にすべて撤去する。

②そのうち、第1、2次リスト対象機を8月末までに回収・撤去する。

との声明が採択されました。

上記のように、ホールが年末までの間でこれほどの台数の撤去を優先せざるを得なくなり、ホールが混乱することで、市場環境は悪化すると予想されます。

1. マカオ

2016年度の10月までの累計カジノ収益は前年同期間比5.8%減の1,846.07億パタカ（約2兆3,999億円）となった。単月で見ると、一昨年6月度以降、26ヶ月連続で前年同月比マイナスの状態が続いていたが、8月度以降は、3ヶ月連続でプラスに転じた。

8月以降に復調した理由としては、下記の2つの大型カジノリゾートが開業したことにより、一定の底上げ効果があったものとみられている。

◇マカオカジノ収益推移〔1～10月累計〕（上段：億パタカ、下段：前年（同期間）比 増減率）

〔出所：マカオ政府のカジノ監理部門：博彩監察協調局（DICJ）〕

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 政府期初予想
年間	1,883.43	2,678.67	3,041.39	3,606.49	3,515.21	2,308.40	2,000.00
1～10月	1,521.08	2,212.00	2,510.11	2,971.09	3,039.67	1,960.74	1,846.07
増減率	+58.8%	+45.4%	+13.5%	+18.4%	+2.3%	△35.5%	△5.8%

《新規開業》



〈ウイン 8/22〉
総工費約42億米ドル。右記のサンズとともに、
カジノ売上の底上げ効果に期待が集まっている。



〈サンズ 9/13〉
パリジャンマカオはフランス・パリをテーマにしたIRで、敷地
内にはエッフェル塔や凱旋門などの代表的な建物が1/2
規模で再現されているのが特徴

1. マカオ

マカオ市場における今年1～10月のカジノ売上高累計実績は、1,846億パタカと前年同期間比で5.8%の減少となりました。

単月では、一昨年の6月から26ヶ月連続で前年同月実績を下回る状態が続いておりましたが、8月以降3ヶ月連続でプラスに転じました。

要因としては、8月に「ウインパレス」、9月に「パリジャン・マカオ」といった新規の大型カジノホテルが開業したことで、一定の底上げ効果があったものと考えられております。

2. 米国

2015年度の米国カジノ市場(コマーシャル+トライバルの合計)は、前年度比5.6%増の701億ドルと、10年度より6年連続のプラス成長となった。2012年からは4年連続で過去最高を更新し、また2015年は金融危機以降で最大の伸び率となった。

米国ゲーミング市場は成熟市場であるものの、経済成長、そしてカジノを導入する州や施設数の増加により、市場規模が拡大していると考えられる。

◇米国カジノ市場規模 推移 (金額: \$bn)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
コマーシャル	34.3	34.6	35.7	37.4	37.9	37.9	40.2
トライバル	26.5	26.5	27.2	27.9	28.0	28.5	29.9
計	60.8	61.1	62.9	65.3	65.9	66.4	70.1

3. フィリピン

フィリピンはアジアのカジノ・観光収入のシェア拡大に向け、「エンターテインメント・シティ」と称されるマニラ湾沿いの約120ヘクタールの土地に4つのカジノリゾート施設の建設を推進しており、既に2つの施設がオープンしているが、3軒めとして日本のユニバーサルエンターテインメント社が進めているカジノリゾート(会長の名を冠して『オカダ・マニラ』と名付けられた)が、12月初旬に第一期開業を予定。

尚、4つめのプロジェクトは2020年に開業の予定。

中国政府による汚職取り締まりを受けて、高額の賭けを楽しむ中国人顧客のマカオ離れが進む中、マニラはアジアにおける新たなカジノ拠点になることを目指している。

大手金融機関の予想では、2018年にはシンガポールを抜いて、マカオに次ぐアジアで第2位の市場規模になるといわれている。



総工費約40億米ドルを投じ、
中国本土客などを誘致する計画

2. 米国

2015年度のカジノ市場は、前年比5.6%増の701億ドルと6年連続のプラス成長となりました。2012年度からは4年連続で過去最高を更新し、さらに2015年度は金融危機以降で最大の伸び率となりました。コマーシャル・カジノ売上の上位3州の2015年度の伸び率を見てみると、ラスベガスは+0.9%、ペンシルベニアは+3%、ニュージャージーでは△8%とこれらの州では市場自体は成熟市場になっているために大きな変動はありませんが、カジノの後発州では施設の供給が増加し、激しい競争が続いております。

3. フィリピン

現在「エンターテインメント・シティ」と称されるマニラ湾沿いの国家的カジノプロジェクトが推進されており、既に2つの施設が開業されておりますが、3軒目として、日本のユニバーサルエンターテインメント社が進めているカジノリゾートが12月初旬に第一期オープンを予定しております。

【政府】

第192回臨時国会が9月26日に召集されたが、今回は与党が積極的な姿勢をみせており、『IR推進法案』の成立に期待がもたれております。

【自治体】**・長崎**

5月17～19日にマカオで開催された『G2Eアジア2016』に、長崎県と佐世保市の共同体である「長崎県・佐世保市IR推進協議会」が、昨年秋のラスベガスに続いて出展した。

世界のIR事業者に対して、長崎県・佐世保市のIR誘致方針、IR誘致の適性
そして、ハウステンボスにおける事業のポテンシャルをアピールした模様。



ブース

・北海道

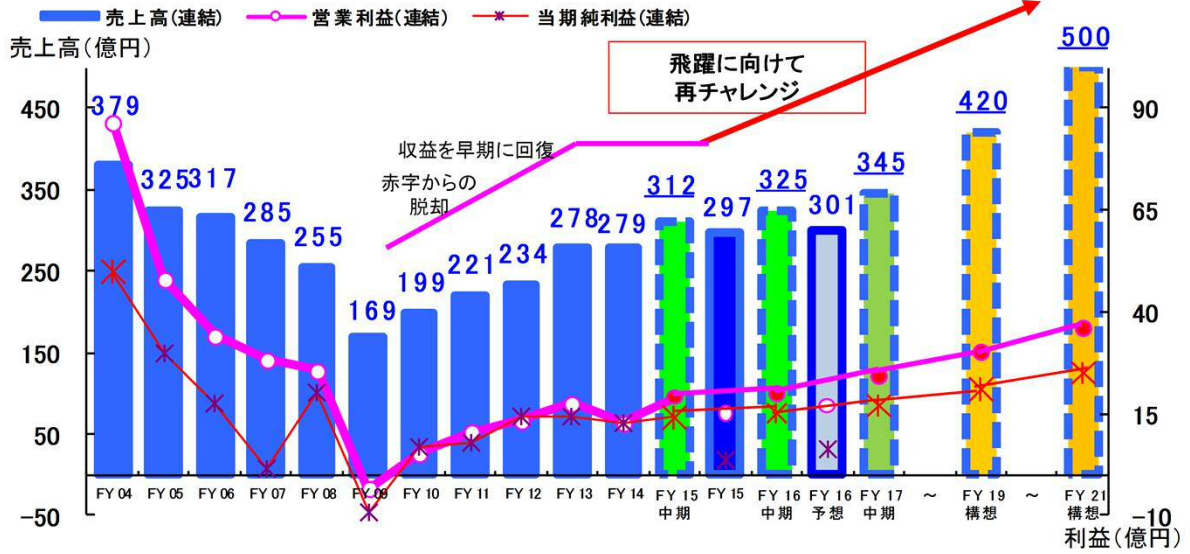
9月27～29日にラスベガスで開催された世界最大のゲーミング産業展『G2E2016』には、釧路商工会議所が出展。尚、北海道では、苫小牧市、釧路市、留寿都(ルスツ)村が誘致活動をしている。

9月26日に第192回臨時国会が召集されましたが、今回は今まで以上に与党が積極的な姿勢を見せていることもあり、『IR推進法案』の成立に期待がもたれております。

	2016/3月期 実績	2017/3月期 修正予想
売上高	29,761	30,100
(率)	5.0%	5.6%
営業利益	1,497	1,700
(率)	1.2%	2.1%
当期純利益	357	640
グローバルゲーミング	16,216	16,600
海外コマース	4,057	3,300
国内コマース	1,919	2,000
遊技場向機器	7,567	8,200
ROE (%)	1.3	2.3
期中レート(米ドル/円)	121.04	107.50
" (ユーロ/円)	133.70	119.70

中期経営計画		
2016/3月期	2017/3月期	2018/3月期
31,200	32,500	34,500
6.1%	6.2%	7.0%
1,900	2,000	2,400
4.5%	4.6%	4.9%
1,400	1,500	1,700
15,250	16,300	17,400
4,450	4,600	5,000
2,400	2,600	2,700
9,100	9,000	9,400
4.8	5.0	5.5
	120.00	
	140.00	

'攻めの姿勢'で成長戦略を確実に
実行し、再び成長軌道へ



	FY04	FY05	FY06	FY07	FY08	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15 中期	FY15 中期	FY16 中期	FY16 予想	FY17 中期	FY19 構想	FY21 構想
売上高	37,947	32,594	31,785	28,543	25,572	16,945	19,970	22,129	23,441	27,806	27,917	31,200	29,761	32,500	30,100	34,500	42,000	50,000
営業利益	8,644	4,824	3,431	2,849	2,561	△ 363	539	1,052	1,330	1,761	1,285	1,900	1,497	2,000	1,700	2,400	3,000	3,600
純利益	4,963	2,969	1,758	157	2,009	△ 940	668	778	1,432	1,418	1,486	1,400	357	1,500	640	1,700	2,100	2,500

2017年3月期 2Q累計実績

日本金銭機械 (6418)

■ プレス案件

- ・6月30日 事業譲受 延期の件
- ・9月 6日 事業譲受 完了の件
 - ・2017年3月期 2Q累計及び通期業績予想修正の件
 - ・自己株式取得に係る事項の決定の件
 - ・取得する株式 普通株式
 - ・取得し得る株式の総数 300千株
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 1.11%)
 - ・取得価額の総額 3億円
- ・9月 8日 自己株式取得結果及び終了の件

■ 主な展示会出展

- ・5月17～19日 G2E Asia 2016 (Macau)
- ・6月21～23日 CIAB[中南米最大の金融展示会] (San Paulo)
- ・8月 9～11日 Australia Gaming Expo (Sydney)
- ・9月 8,9日 FIT2016 金融国際情報技術展 (東京国際フォーラム)
- ・9月27～29日 G2E Las Vegas 2016

進行年度の上半期での主なプレス案件と出展した展示会を記載しております。

日本金銭機械株式会社 (日本語)

<http://www.jcm-hq.co.jp>

JCM Global(English)

<http://jcmglobal.com/>

過去の決算説明会資料は、ホームページ(日本語)でもご覧いただけます。

「株主・投資家の皆さまへ」⇒「IRイベント」⇒「IR説明会」

お問合せ先 : 経営企画部 広報・IRグループ 06-6703-8400(代)

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれまいようお願いいたします。